

## ⑥ 情報発信

### 京北めぐるSDGs問答

世代や分野を超えて「持続可能性・SDGs」をテーマに、「問答」する。

#宇宙



山崎直子 山数庸亮

#地方創生



小杉山浩太郎 荒川教史 山内幸治

#福祉



國中雅之 上原大祐 西川ハンナ

#資源循環



酒井伸一 土居健太郎

国連の持続可能な開発目標「Sustainable Development Goals (SDGs)」には、社会課題を網羅する17のゴールが掲げられています。英語で、数も多く、とっつきにくいかもしれませんが、一つひとつ見ていくと、私たちの日々の暮らしにも根差したものであり、総体としてみると、社会や街の理解につながることがわかります。本企画では、様々な方をメインスピーカーとしてお招きし、京北の方にもお入りいただき「持続可能性・SDGs」をテーマに、ぶっつけ本番の問答をさせていただきます。



トラウデン直美さんも登場！  
ご自身の体験を踏まえSDGsについてお話をいただきました。



トラウデン直美

### 問答出演者募集

京北地域で活動されている方の出演を求めています。

(#生物多様性、#宇宙、#ごみ、#教育、etc.)  
出演希望の方の取り組み内容を踏まえ、テーマに合致した回へのご出演を調整します



尾池和夫 一瀬裕子

樹々の会、森守協力隊、上桂川漁業協同組合等の皆様もご出演！



### アップサイクル作品展

アップサイクルは、捨てられる運命にあったものを回収して手を加え、用途の変換やデザイン上の工夫を通じて、価値を向上させた上で、再度私たちの暮らしに戻す取り組みです。私たちの生活からは、素材としてはまだまだ使えるものの、初めの用途で使われなくなったものが、大量に生み出されています。それらを活用して、もう一度人々に愛される商品・作品に仕立て上げる。持続可能な循環型社会に近づくための、日本各地の事業者／取り組み主体の智慧と工夫がこの展示には詰まっています。この動画では展示品の魅力に惹かれた観覧者がつつい展示品を手に取り、思い思いの足取りで歩き出します・・・！ 展示会場を飛び出した展示品は、さあ、どこへ・・・？

### 活動予定

- 8月1日 第3回京北SDGs農業研究会
- 8月20日～21日 出張京北めぐる市 新京極公園
- 8月27日 第10回「京北めぐる市」
- 8月 生ごみ分別モニター募集スタート
- 9月24日 第11回「京北めぐる市」
- 10月22日 第12回「京北めぐる市」
- 10月 生ごみ分別モニター取組み開始
- 11月4日～6日 京都大学超SDGsシンポジウム
- 11月26日 第13回「京北めぐる市」
- 12月24日 第14回「京北めぐる市」
- 12月 京北SDGs農業研究会視察

### 秋のめぐるSDGs問答

テーマ:モリモリ秋の収穫祭

10月22日(土)

14:00～16:00 @ことす&オンライン

辰巳拓郎さん  
ゲスト 田中正之さん(京都市動物園 生き物・学び・研究センター長)  
安藤孝夫会長(三洋化成工業㈱)

お問合せ (一社)びっくりエコ研究所(梶谷・前田)

電話:075-748-1986(ことす)

メール:mezase530@gmail.com



この印刷物は、自然エネルギー(バイオマス発電5.6kWh)を使用して印刷しました。

# 京北めぐるプロジェクト 進捗報告

昨年11月からスタートした「京北めぐるプロジェクト」、京北地域の皆様と連携・協力し実証事業を進めてきました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。それでは引き続き本プロジェクトの進捗を見ていきましょう！

## ① 3R(リデュース・リユース・リサイクル) 拠点モデルをつくる

### 「京北・資源めぐるステーション」の検証

ことすを拠点に毎月第四土曜に京北めぐる市を開催し、家に眠っている物と、欲しい人をつなげ、「物と価値と想い」を循環させるフリーマーケットイベントの実施とアップサイクル作品を全国各地から集め常設展示してきました。

ご提供いただいた食器、調理道具類はことすのキッチンラボで使用し、衣料品類は多くの方に持ち込みいただき、フリマコーナーを併設してお気に入りの一着があればお持ち帰りいただきました。引き続きテーマを決めて資源回収を行います。現在、漫画本(雑誌は除く)と釣り道具、衣料品の回収を実施しています！



ことすでは家に眠っているモノと、欲しいモノを繋げる資源循環を行なっています。自宅に上記の不要品がある方は是非回収にご協力下さい。

また、ことすにはご来館いただいたでしょうか？ 一般的な「ごみ箱」という物がなく、ごみを捨てる際にはごみを徹底分別するコーナー(資源めぐるステーション)があり普段なら何気なく捨てているごみが、いかに多いのか、どんな種類があるのかが一目でわかり、自然とごみの減量や分別する意識が醸成されます。おかげで買い物の際に「ごみとして捨てる時の事まで考えるようになった」という声もいただいています。



ことす  
めぐるレター  
KOTOS  
Meguru  
News Letter

Vol.4

2022年8月

発行  
(一社)びっくりエコ研究所

### 京北めぐるプロジェクトについて

正式な事業名称:  
環境省令和4年度脱炭素化・先導的廃棄物処理システム実証事業(多様な地域資源の有効活用に資する技術実証事業)  
「生ごみバイオガス化施設のオンサイト利用による脱炭素型農業を核とした里山・都市循環」

実施主体:  
(一社)びっくりエコ研究所

協力・連携:  
京都超SDGsコンソーシアム、京都里山SDGsラボ運営協議会等

期間:  
2021年11月～

## ② 3Rの理解を深める参加型・体験型イベントの開催

### 京都京北小中学校4年生の授業

昨年度は、オンライン授業で4年生が「ごみ」をテーマに10時間取り組みました。写真は最後に作った壁新聞です。ことすに貼っています。今年度も4年生が「ごみ」や「循環」についてあらゆる角度から考えたり、話し合ったりします。35時間の授業を行う予定ですので、春には京北に23名のごみのスペシャリストが誕生しているかもしれませんね。みなさんも是非「ごみの減量」について一緒に取り組んでください。



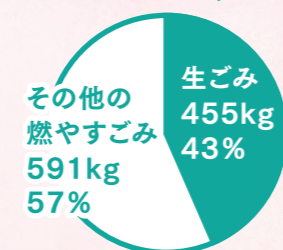
## ③ 生ごみ分別モニターの結果報告

生ごみ分別モニターにご協力いただきありがとうございました。96世帯が参加してくださりました。ここではアンケートの提出までしていただいた68世帯の結果について報告します。

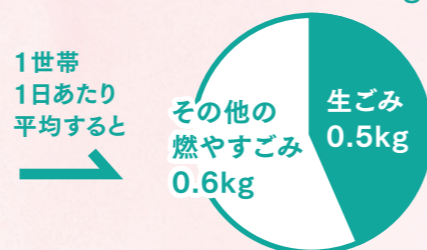
### 14日間のごみの合計

68世帯が14日間で計測したごみは合計で1,046kgに及び、生ごみは燃やすごみの43%を占めました。1日1世帯あたり平均すると、燃やすごみを1.1kg出し、そのうち生ごみを0.5kg出していることになります。

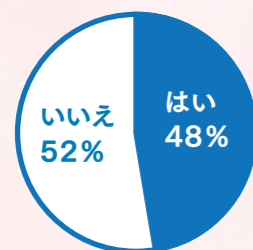
14日間の合計1,046kg



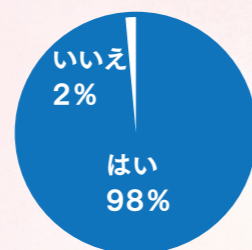
燃やすごみ1.1kg



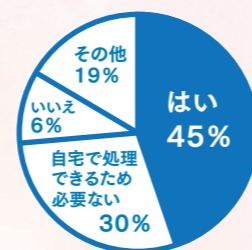
Q 生ごみを分別することで、燃やすごみの指定袋(黄色の袋)を小さなサイズに変更できそうでしたか?



Q 生ごみを分別回収し、リサイクルすることは社会に必要だと思いますか?



Q 将来、お住まいの地域で生ごみの分別収集があれば、参加したいと思いますか?



このほかに、生ごみの分別と処理をしてみて75%の方が「かんたんだった」と回答しました。生ごみのリサイクルの必要性や、分別自体がむずかしいものではないことを実感していただいたと思います。モニター期間は終わりましたが、引き続きミニミニバイオガスプラントへ生ごみの持込を歓迎しています!

## ④ 有機資源を活用するSDGs農業

### 液肥検証

京北の協力農家さんのハウスで液肥を使って栽培したかぶを収穫しました。従来の方法での栽培と遜色なく育ちました。ただし、葉などの可食部にかかった液肥が黒く残ってしまう点で注意が必要でした。



### ことすSDGs農園

2022年4月、協力農家さんの田んぼに、軽トラックで液肥を散布しました。このほか、八木バイオエコロジーセンターの散布車を使って、液肥を散布した田んぼもあります。品種や場所によって液肥をまく量を3~6tまで差をつけてみました。穂肥が必要になるかどうか見守りたいと思います。



収穫した夏野菜は市内の提携飲食店さんにお届け。種まき体験、収穫体験にも足を運んでいただきました。



液肥のお持ち帰りはいかがですか?ミニミニバイオガスプラントで作られる液肥を家庭菜園やご自宅の畑でも使用いただけます。  
※生ごみを投入した分、液肥が生産されます。投入しない事には生産されない为生ごみの持ち込みを募集中です。

## ⑤ 資源循環システムのモデル

京北地域をモデルに、全国の中山間地域にも波及できるような資源循環システムモデルを検討します。バイオガスプラントを核とする循環については、プラントの規模や、どのような原料をどこから集められるかなどを検討し、持続可能な方法を模索したいと考えています。また、食品リサイクルループで京北地域と市街地(レストランやホテル、動物園、商業施設等)を結ぶプロジェクトを試行し、社会課題解決やSDGs達成につなげます。再生可能エネルギーを生み出す水力発電や、廃棄野菜をえさにウニを陸上養殖する実証などにも挑戦します。

### この事業で目指す資源とエネルギーの循環システム

調査や実証を通じて、京北地域内の循環や、市街地と連携した循環のしくみを検討します。地域の未利用資源を利用できれば、エネルギーや資源面で自立した持続可能な先進地域として脱炭素社会をリードすることができます。そのようなしくみの中でつくられる農産物等をブランド化し、地域産業の活性化につながるよう試行します。

